

自己実現への道

第43回 ー第1章 能力の走行距離は無限大に伸びる(その5)ー

●「苦しみを楽しむ」ことにより事態は好転する・・・失敗したらどうしよう？ とか、不安に陥ることは多い。しかし「怯んではならない！！」信念を堅持している限り、全てを失うことはない。そして、信念を堅持するかどうかは、私たちに委ねられている選択であって、偶然に決まるものではないのだ。様々な事態に当面するが、どう対処するかは、私たちに委ねられている。積極的に対応するか、消極的に対応するかを選択権はいつも私たちにあるのだ。だから、**今この時から、「積極対応」を心がけよう。**

・まず、運命の神に感謝しよう。どんなことがあっても**喜びの心を忘れてはならない。**

・夢が挫折することがあるかも知れない。しかし、信念の両足を踏ん張って**立ち続けよう。**

・この苦境を転じて、輝く時とすることも可能である。・悲しい出来事を勝利に転じることができる。

・苦境にあるときも人々の励みになるように生きるのだ。・**勇気を持って立ち向かう**ことで信頼が得られる。

「**苦しみを楽しむ**」ところまで進歩したいものだ。苦境に遭うことによって人間は強くなり、それが発展の契機となるからである。また、信念の強い人に**突破できない難関はない。**たとえ一見無理なようにみえても、難関を突破できるかどうかは、その人の心の姿勢によるものなのだ。

●前進していれば失意のときもすぐ過ぎ去る

精神的なショックを緩和する機能は生きてゆくために極めて重要である。悲しみに遭って意気消沈しても、再び起き上がったまえ。**人生にチャンスと恵みはいくらでもある**からだ。悲しみにいつまでも溺れていたのではなかなか前進できない。**前進して止まない人生**ならば、多くの悲しみはかえってあなたの人生を彩ってくれるであろう。

●「信念を弾丸(たま)のようにかみしめる」

”biting the bullet”という言葉は昔、米国西部でまだ鎮痛剤がなかったころに生まれた言葉だ。本当に人々は文字通り上下の歯の間に弾丸をはさみ、しっかりかみしめながら痛みをまぎらわしたのだ。

信念を弾丸のようにかみしめれば、耐え難いものに耐えることができるのだ。

(有名な「ヨブ記」や、アディントンの『奇跡の時は今』の本の中で「あんなに苦しんでも、なお神を信じる人を、神は見放さないであろう」と書かれている)

●どんな不幸も希望の芽をはらんでいる

人は**禍いを転じて福となす**ことができる。人は打ち砕かれても、なお逞しく生きることができる。今私におそいかかっている言葉にできない悲運も、**心の持ち方**によっては益となすことができる」

いつまでも心の痛みにこだわらずに、**明るい希望を持って未来の目標を再建しよう。**まず、ごく近い将来に確実に実現できるよう、ほどよい目標を立てるのが賢明である、そして新鮮な勝利を味わい、その感激をバネにして、さらに新しく、より高い目標を樹立する。こうして、次第に力を蓄えながら成長すればよいのだ。**勇気ある対応だけが、自分自身や他の人々を動かす感動の源泉となりうる**のである。そして、その**価値は計り知れないほど偉大**である。

<MIKO>

☞ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より